

## 「神宿る島」に見る

### 古代の祈りの姿

6月14日から23日まで、豊岡稽古堂市民ギャラリーで「起源〜宗像三宮〜増浦行仁写真展」を開催しました。

増浦さんの豊岡稽古堂での写真展は、一昨年の「神の宮」に続いて2回目です。今回は、ユネスコ世界遺産に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を撮影した作品約20点を展示。一般の入島を禁じられた沖ノ島の神秘的な聖地などが紹介されました。

《問合せ》文化振興課 ☎23-11160



▲「神宿る島」沖ノ島に浅る古代の齋場などの写真を展示

## 全国からのランナーを

### 神鍋高原でおもてなし

6月16日、全但バス但馬ドーム(日高町名色)発着の神鍋高原周回コースで、第39回兵庫神鍋高原マラソン全国大会を開催しました。

ファミリーマラソン、ハーフマラソン、5km、10kmの4種目で、約4千人のランナーが健脚を競いました。

沿道では地元小学生らが声援を送った他、ドームでは市民らが但馬牛のバーベキューやバンザイコーナーなどでランナーをもてなし、交流を深めました。

《問合せ》スポーツ振興課 ☎21-9023



▲ファミリーマラソンのスタート。大会には北は北海道から、南は熊本県まで、全国各地からランナーが集結

# 市政 ニュース

## 主な市政の動き

### 【6月】

- 14日・「起源〜宗像三宮〜増浦行仁写真展」(23日)
- ・教科書展示会(30日)
- 16日・第39回兵庫神鍋高原マラソン全国大会
- 21日・ビジネス相談窓口「IPPOTYOO KA」開設
- 24日・G20大阪サミット消防特別警戒に消防本部から職員を派遣(30日)
- ・青パトによる防犯パトロール出発式

### 【7月】

- 1日・保育支援システム導入  
・本庁舎などで敷地内全面禁煙スタート
- 3日・関係機関合同水難救助訓練
- 5日・嶋崎 玖君と嶋崎 珀君にコウノトリ賞授与
- 27日・豊岡市少年野球教室(市内各小学校、28日)
- 28日・豊岡市地方創生総合戦略(第5版)改訂
- ・豊岡市第10次インドネシア漁業実習生修了証授与式



## 新規事業や起業をサポート 内発型産業の育成を加速

6月21日、コワーキングスペース「FLAP TOYOOKA」に、無料ビジネス相談窓口「IPPO TOYOOKA」を開設しました。

月に5日程度の相談日を設け、経営相談員が市内で新規事業や起業などを考えている方を支援します。初日は、オープニングセレモニーを行った他、宿泊施設の開業やスイーツの製造・販売など、4件の相談を受けました。本市は、チャレンジを応援する窓口を新設することで、内発型産業の育成をサポートします。

《問合せ》環境経済課 ☎23-4480



▲既存ビジネスの加速、新規ビジネス・個人事業の創造、会社の設立、副業など、相談内容は多岐

## 保護者の利便性の向上と 保育士の負担軽減を推進

7月1日から、保育士等確保推進事業モデル園の八条認定こども園で、保育支援システム「コードモン」の本格運用を開始しました。

このシステムでは、スマホアプリで園と保護者間の連絡や、園児の登降園の管理などができ、保護者の利便性の向上と保育士等の勤務環境の改善が期待されます。

モデル園での実績を踏まえ、来年度以降、他の園での導入も検討します。

3 《問合せ》こども育成課 ☎29-0005



▲保護者はICカードで登園・降園を打刻したり、スマホで遅刻・欠席を連絡

## 中貝市長の徒然日記 ⑭

### 自転車をごく

最近、自転車です。通勤も、めったにない休日も、早朝と夕刻に自転車です。

夏。徒歩は、50分かけて職場に着くころには汗だくになって、すぐには仕事になりません。で、自転車です。さうと風を切ることにしました。

加えて、最近、関係方面から体型についてのご指摘を多数いただくようになりました。徒歩より自転車の方が単位時間当たりの消費カロリーが大きく、腹筋にも効く、との緻密な計算もしています。

早く着くのが目的ではありませんので、円山川の堤防の上を行ったり来たりして時間を稼いでいます。家族には笑われていますが、決して怪しい行動ではありません。

自転車のきつかけは、5月25日に行った大地震発生時の市職員参集訓練でした。「市長が出張で不在」を想定した訓練でした。多くは訓練の対象外でしたが、自転車を買い求め、自主参加しました。

当日、午前8時34分。招集メールが届きます。「大地震発生！M7.3の直下型。豊岡震度7、城崎震度6強、竹野震度6強：道路、鉄道は寸断、公共交通機関は運行見合わせ。バイク、自転車、徒歩などにより参集のこと」

直ちに自宅を飛び出しました。自転車なら20分です。でも、余震もあります。道路は、ほとんど例外なく脇に電柱が立っています。地震で電柱が倒れ、あるいは切れた電線が火花を散らして路上をのたうち回っているかもしれません。いつ到着できるかわかりません。

しかも、「家族が家の下敷きに！市長、助けて！」と呼び止められる可能性もあります。が、多くは、一刻も早く市役所に行って、災害対策本部で陣頭指揮をとる必要があります。心を鬼にして、その場を立ち去らなければなりません。市役所に着くまでの間、市民と自分の心をどれほど傷つけながら自転車をこいでいかなければならないのか。想像もつきません。